

なっきょん

2011春



奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

特集

教育実習の日々 附属小学校編

NEWS

大学附置センターを再編
「教育研究支援機構」発足

ラボ・レター

教育心理学 豊田弘司研究室

クローズアップ

音楽を科学する
福井 一教授

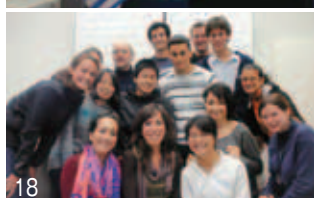
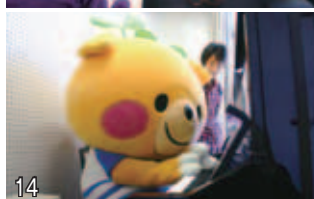
なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ





CONTENTS



2 特集 教育実習の日々～附属小学校編～ **教育の「ねらい」と「責任」** —4週間の気づきと課題—

7 NEWS 大学附置センターを再編 「教育研究支援機構」発足

9 羅針盤 ホールスクールアプローチで取り組むESDの推進

10 ラボ・レター 教育心理学 豊田弘司研究室

11 クローズアップ 音楽を科学する福井一教授

14 なつきょん's CLUB企画 **奈教のひみつ ～学内施設紹介～**

17 ひと・あれ・これ 教材開発に携わる堀井麻美さん

18 留学生レポート ハイデルベルク大学(ドイツ) 尾登勇介さん

19 キラリ☆奈教生 世界大会出場の附属中学校科学部をコーチとして支えた真城匠さん

20 ブカツ魂! バドミントン部

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました! **教育実習で一番感動した瞬間**

表紙のはなし

教育実習

表紙写真は、附属小学校で4週間実習に参加した教育学部3回生の福山知美さん。

4週間の実習に密着して、彼女たち実習生5人のチームワークと絆の強さを感じました。はじめこそお互いに遠慮がちに見えましたが、共に教材研究や模擬授業をしていくにつれて、その日気づいた良い点、悪い点を指摘、意見交換するという光景が見られるようになりました。

誰もが不安に感じる「初めの一歩」も、共に悩み、迷い、そして励ましあえる仲間がいればきっと勇気を出して踏み出せるのだということも、福山さんの笑顔を見て実習生たちは学んだように感じました。

(企画・広報室)





特集 教育実習の日々 ～附属小学校編～

教育の「ねらい」と「責任」—4週間の気づきと課題—

本学教育学部学校教育教員養成課程で学ぶ学生の多くが、
小学校での教育実習を経験します。

実習を通して学生たちはどのようなことを学び、考え、
成長していくのでしょうか。

前回の「教育実習の日々～附属幼稚園編～」(2010年春号)に続いて、
今回は附属小学校6年生の児童数35名のクラスに配置された、
母校実習生を含む5人の4週間実習に密着しました。

授業だけが実習ではない

実習初日、緊張した面持ちの5人が子どもたちの前で自己紹介をしました。実習生たちは「教生先生」と呼ばれ、それぞれ配置されたクラスで先生としての生活を始めます。「不安があっても、どんなにつらくとも子どもの前では笑顔でリーダーシップを発揮することが大事。そうでなければ、子どもたちが不安を感じてしまう。」クラス担任であり、実習生の指導教諭でもある山室教諭からいただいた言葉を胸に、期待と不安の中、夢への第一歩を踏み出しました。

最初の1週目は、主に子どもとの関係作り、また子ども同士の関係を観察することで、子どもたちと関わっていくため

のさまざまなことを学び、2週目からは、いよいよ授業を担当することになります。40分間の授業を行うのは決して簡単なことではありません。児童のようすや教材研究、ねらいの設定、導入、展開、発問、学習指導案づくり、教材づくり、反省と分析等々、授業時間の何倍もの準備や復習が必要です。子どもたちが下校した後のひっそりとした校内で、実習生たちは授業の準備に取りかかり、それは夜遅くまで続きます。

原点を問い直す

そして迎えた初めての授業。5人はそれぞれ緊張した面持ちで、準備してきたことを一所懸命に伝えようとしていました。

しかしなかなか思う通りにはいかなかったようです。例えば、山岡さんの初授業は国語でしたが、準備してきた発問に特定の子が何度も答えてしまい、想定通りに進まなくなってしまいました。戸惑う山岡さんは、なんとか準備してきた通りの形に戻そうとするのですが、なかなかうまくいきません。子どもたちもまた「教生先生」の緊張や戸惑いを感じ取り、固くなってしまったようです。結局、ぎくしゃくした空気のまま、初授業は終わってしまいました。





授業後の反省会

授業後の反省会で、実習生たちは、うまくいかないもどかしさを次のように語りました。

山岡さん:子どもからの質問を想定できていなくて、準備してきたことを進めることばかりに頭がいてしまった。僕の発問に同じ子ばかりが答えてしまって、どう対応すればいいのかわからなくなっていました。

実習生たちの言葉に耳を傾けていた山室教諭は、授業自体の意味を問い直すような言葉を投げかけました。

山室教諭:発問って何のためにするのだろう。授業によっては正しい答えを出させたいときと、その子なりの意見を出さ

せたいときがある。だから時には、手を挙げていない子を当てることもできるかもしれない。でも、発問の目的は正しい答えを言わせることではない。本当の目的は子どもたちの学習活動を生み出すこと。石を投げれば水面に波が立つように、発問という石を投げて波を立たせる、子どもたちが自ら学ぼう、考えようとする気持ちを引き出すことこそが大事なんだ。

導入が授業のリズムを作り出す

準備してきた通りに授業を進めようともがいていた実習生たちは、山室教諭の問いかけによって、授業そのものの意味を考えるようになりました。山岡さん

は次のように話してくれました。「良い授業をするというのは、準備してきたことをうまくやりきるのではなく、いかに子どもたちに『ねらい』を達成させられたかということだと気づきました。そのことで学習指導案の書き方も変わってきました。」

「学習指導案」とは、授業をどのように進めていくかを記した計画書のようなもので、実習生たちは毎時間これを作成します。題材を通じた全体の目標や指導内容はもちろん、子どものようす、指導計画、その授業のねらいや導入、展開などの進め方、板書計画など、各項目を記述することで授業を練り上げていきます。実習生は、大学の授業でも学習指導案を作成してきましたが、実際に授業を担当して初めて、何が大切かを切

実習にあたっての抱負



「大学ではウィンドアンサンブルの活動を通じて小学校などで子どもたちとふれあうことがあるのですが、短い時間なので、実習では長く子どもたちとふれあうことで何か新しい発見をしたいです。」

教育学部学校教育教員養成課程
身体・表現コース 3回生
奈良県立畝傍高等学校出身
おくの のりよ
奥野 訓世さん



「事前指導で先生が、子どもがうれしくなるような声かけをしているのを見たので、褒めたり、しかったりする授業の細かい技を見て吸収していきたいです。」

教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 3回生
奈良県立奈良高等学校出身
さかい すずか
酒井 鈴加さん



「小学校なので精神的な土台形成過程がみられ、大事な時期だと思います。子どもと教師だけでなく、子どもと子どもの関係づくりを知り、その環境づくり、橋渡しがどのようにしていけるのかを見たいです。」

教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 3回生
和歌山県立田辺高等学校出身
ふくやま ともみ
福山 知美さん



指導教諭 EYES

実習生に期待すること…

授業の進め方というのは、いかに多くの子どもを流れに乗せられるかにかかっています。授業には山もあれば谷もあります。山になればゆっくりになり、谷になれば早くなる。そういう感覚がつけば子どももついてきます。しかし、こういう感覚は教員になって経験を積み重ねて自然とついてきます。

それ以上に、実習では「ねらい」の大切さを感じてほしいです。実際に授業をしてみると「ねらい」がつかめていなかったら授業がいかでかできないかということを感じてほしいです。そのことで、「ねらい」を見極める力を少しでも養ってもらえればと思います。

そこには子どもに教える責任も当然でできます。「教育」は教育者が「ねらい」を誤ってしまうと、直接子どもへ影響を与えてしまいます。

また、今は教材研究をして題材から「ねらい」を探している段階ですが、教員になって何年か実績をつんでいく中で、今度は子どもが、これから自立し成長していくために何が必要かということに視点



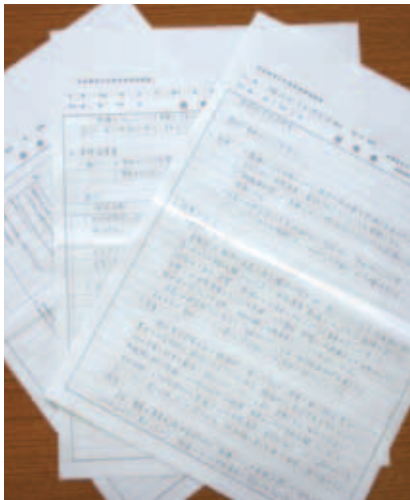
を置いて、教育の「ねらい」を設定していったらいいと思います。

指導教諭
やまむら みつお
山室 光生 教諭

■奈良教育大学の教育実習の特長

恵まれた実習環境

多くの学生が実習を行う附属幼稚園、附属小学校は、大学キャンパスに隣接しているため、実習期間中も大学図書館や学生オフィスなどの施設を利用しやすく、実習仲間と情報交換を行いながら教材研究などの授業準備ができます。また、実習中に悩んだり、相談したいことなどが出来たら、すぐに大学教員に相談にいくことができるなどのメリットがあります。その他にも、実習が終わってからキャンパス内を登下校する附属小学校の児童に声をかけられることもあります。



実習生が作成した学習指導案

実際に考えながら書くようになったということです。

また、山岡さんが口にした「ねらい」とは、この実習のキーワードでもありました。山室教諭から授業を振り返る際のアドバイスとして、全体を通じての学習活動はどうだったか、導入ではねらいを共有できていたか、そしてねらいを達成できたかと、順を追って分析するといった教わった実習生たちは、自分の授業の「導入」「展開」、そして「まとめ」と追っていくうちに、「ねらい」と「導入」の大切さがわかってきたのです。ある日の反省会では、次のようなやりとりが見られました。

山岡さん：今まで「導入」というのは、その日授業をやることを説明するだけで

済ませられると考えていました。

酒井さん：私も、子どもの関心を教員に集めて、「導入」の最後にその日の「めあて（ねらい）」を板書すればいいとだけ考えていました。

山室教諭：「導入」は、決してただ単に子どもたちの関心を教員に向けることだけではない。教員が準備してきたものを子どもたちと共有して、学習課題を明確にして初めて「導入」として機能する。「今日はこういうことを考えながら勉強しますよ」といった、土俵をつくるのが大切。「導入」がうまくいけば「展開」は子どもたちが自ら自然と進めてくれる、逆にうまくできていないと子どもたちをリードできず何をして良いのかわからないという混乱した状況を作ってしまう。

「展開」で苦勞していた実習生たちは、この言葉を切実に受け止めたようでした。当初は「展開」ばかりに目を向けていた実習生たちも、「導入」から始まる一連の流れによって授業が成立するのだという事実を改めて理解しました。準備の段階から「ねらい」をしっかりと持ち、「導入」で子どもたちと共通の土台をつくる。こうした意識のもとで構想された実習生たちの授業は、次第に生き生きとしたものになっていきました。もちろん未熟な部分はたくさん見られますが、しかし何より子どもたちの笑顔があふれる授業をできるまでになったのです。



教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 3年生
私立クラーク記念国際高等学校出身
やまおか ともき
山岡 知樹 さん

「小学校は、中学校での教育ともつながっているし、小学生にわかる授業というのは、中学校でも実践できると思います。子どもたちとふれあう時間を大切にしながらいろいろと吸収していきたいです。」



私立大学 3年生
母校実習（附属小学校出身）
まきむら えり
牧村 英莉 さん

「先生と子どもの関係、子どもと子どもの関係、声かけの方法などを見ていきたいです。大学では、さまざまな指導方法を聞いていますが附属小学校では専科の先生などいろいろな先生がいるので見て吸収していきたいです。」

解決前に 課題整理が待っている

文字通り寝る間も惜しんで実習漬けの日々を送った実習生たちは、抱えきれないほど多くのことを学びました。長くて短い4週間を終えて、実習生たちは「教生先生」から再び「大学生」へと戻ります。子どもたちに教えることの難しさややりがいを体感した学生たちにとって、大学での学びはより切実な、そして深みをもったものとして立ち現れてくるでしょう。実習で得た自分の経験を意味づけ、多くの課題に向き合う術を得るために、そして「教育のねらい」を探究するために、学生たちは今日も大学のキャンパスで学んでいます。



授業の合間にも子どもたちが自然と集まってくる



遅くまで模擬授業を繰り返す



他の実習生からのアドバイスも貴重なものとなる



授業では子どもたちの元気な声が飛ぶ



最終日には子どもたちからサプライズも



指導教諭の授業からは学ぶことが多い



給食の配膳も手伝う



大きな声で子どもたちと向き合う

実習を終えて

あっという間の4週間が過ぎた今、悩み、迷い、
励まし合いながら実習を乗り切った5人に感想を聞いた。

奥野さん:一人ひとりへの声かけはその子の課題を考えながらできたのですが、集団への声かけになると難しく感じました。実習では、子どものこと以上に学習指導案など基本的なことがまだまだできていないと実感しました。

酒井さん:褒めることも、叱ることも、すべてが「ねらい」という大きな幹につながっていると考えるようになりました。また、どんなにしんどくても子どもと一緒に笑顔で登校すると自然と自分にもスイッチが入りました。

福山さん:子どもと子どもの橋渡しとして、どのように動けるかということから、子ども一人ひとりの課題を見つけることで、頭ごなしに叱るのではなく、個々に応じたアプローチで考えさせる必要があるとわかりました。

山岡さん:実習を終えて、授業で「何を教えるか」から「どのように教えるか」と考えるようになりました。また「ねらい」を考えながら、活動と照らし合わせて研究授業を見ることができるようになりました。

牧村さん:声かけの仕方先生によって違うことがわかりました。また注意するとき、6年生などは頭ごなしに叱るのでなく、論理的に伝えないとだめだということ、プラスの声かけが重要だということに気づかされました。



教育者を目指す、 学生へのメッセージ

教育者としての自覚と責任を 感じてほしい

教育実践開発研究センター
教育実践研究部門
あか ざわ はや と
准教授 赤沢 早人



「想定外」を乗り越えてこそ 体得できることがあります

教育実習を経験することで、学生たちは大きく成長します。シミュレーション通りにいかない現実とぶつかり格闘することで、現場に対するリアリティも高まり、大学で蓄えてきた知識を実践的に体得することができるのです。実習を終えた学生たちはよく「大学での勉強を、もっとしっかりしておけばよかった」といいますが、この言葉は学生たちの成長ぶりを表していると思います。

しかし、ただ教育実習に行けば成長するというわけではありません。やはりそこには、教育者として子どもや生徒に接するのだという自覚や責任が必要です。また実習後には自らを振り返る冷静さも必要でしょう。本学では、教育実習を本当に意義のあるものにするために「事前指導」と「事後指導」を行っています。

「事前指導」とは、教育実習生として教壇に立つための準備をする授業です。3回生の4月から7月までの半期間、毎週2コマを受講します。学生たちは実習に関する基礎的なことを学んだ後、幼稚園、小学校、中学校に分かれ、それぞれ附属学校の先生方から直接指導を受けます。例えば小学校実習を希望する学生であれば、初等教育の方針、子どもの見方、各学年における教材と発達段階の関わり等々に関して附属小学校の先生方の話を聞き、実際の授業や活動を観察することで、現場に対する理解を深めていくのです。

また「事後指導」とは、自らの実習経験を振りかえるための授業です。学生たちが実習体験を発表したり、印象に残っている授業を文章化したりしながら、実習中の自分を見つめ直すことができるように、シンポジウム形式の報告会を行っています。教育実習の最中は、目の前のことをこなすのに精一杯で、振りかえる余裕ありませんから、実習を終えた後に、その時の自分を突き放し対象化する作業が必要なのです。こうした振りかえりの方法は、将来、教職に就いた後もおおいに役立つはずです。

教育大学だからできる 実習があります

奈良教育大学の教育実習の特長は、本学のメリットである少人数制がいかにされているということです。学生一人ひとりを大切に育てていこうという意識のもと、附属学校教員も大学教員もきめ細かな指導をしています。特に、本編からも伝わるとと思いますが、附属学校の先生方は学生の成長を厳しくも温かく、また辛抱強く見守ってくれています。また、附属小学校と附属幼稚園は大学に隣接しており、実習期間中も大学図書館などの施設を利用しやすく、大学教員に相談しやすい環境にあります。このような望ましい環境の中でさまざまなタイプの子どもたちと向き合い、実践的に学んでいけるというのはとても恵まれたことです。将来教壇に立った時に、この経験は必ず生きてくると思います。

本学の教育実習では、誰かの陰に隠れてやり過ごそうなどという甘い考えは通用しません。本気で教員になりたいという強い思い、そして教育者としての自覚や責任を持つ人には、とても濃密な、価値ある経験となるでしょう。



大学附置センターを再編 「教育研究支援機構」発足

第2期中期目標・中期計画における「大学の基本的な目標」を踏まえ、本学附置センターの学部・大学院教育へのサポート体制をより強化するとともに、地域と連携した活動を進展させるため、平成23年3月にセンターを再編、新たに「奈良教育大学教育研究支援機構」が発足した。

今回は、機構長である長友恒人^{ながともつね と}学長にセンター再編への思いを伺った。



平成23年3月に本学のセンターを再編されたとのことですが、これに至った経緯やその目的は何でしょうか？

これまで本学には、教員養成大学としての特色を生かした教育研究に関わって、教育実践総合センターをはじめとして、5つの大学附置センターがありました。

これらのセンターは、教育現場や地域社会におけるニーズに合わせてより高度な教育研究を行うことができるように、教育研究の進展とともに順次開設されてきたわけです。国立大学時代の附置センターは、教育実践総合センター、自然環境教育センター、保健管理センター、情報処理センターと図書館でした。法人化後、情報化に対応して、図書館、情報処理センター、資料館は学術情報研究センターとして統合されました。また、文部科学省のGPなど競争的資金によって開始した活動を定着継続させるために、特別支援教育研究センター、理数教育研究センターとボランティア支援総合センターが設置されました。これらのセンターは、地域社会にもより深く関わって教育研究を行い、その成果を、教員養成教育に反映させるとともに、さまざまな講習会、研究会や公開講座等を通じて、地域の方々に発信し還元するなど重要な役割を担ってきました。

一方、本学は世界遺産にも登録された古都「奈良」にあって、文化財や世界遺産を生かした教育研究の伝統があり、これと結びつけたユネスコスクールの活動、持続発展教育(ESD)の展開も軌道にのってきました。また、近年重視されている地域の教育力という視点から、スクールサポーターの育成も組織的に行うようになりました。これらの活動もGP等競争的資金によってスタートしましたが、さらに地域と連携した教育研究を推進する必要があります。

以上のような、既存のセンターの活動をより発展させ、新しい教育課題にも応えていくために、それぞれのセンターの機能を調整し、連携して附置センター全体として大学教育をサポートし、地域の教育に今まで以上に貢献できるようにすることがこの度のセンター再編のねらいです。

今後、各センターの活動を本学の特色ある教育研究としてより進展させることで、教育的実践力を持った個性豊かな教員の養成に寄与するとともに、地域と大学をつなぐパイプ役としてより充実した取り組みができるようにしたいものです。



具体的にどのように再編されるのでしょうか？

センターの再編にあたっては、既存センターの機能を明確にしてこれまでの活動をより発展させ、新たなニーズにも応えていくことが必要です。そのため、新たに「奈良教育大学教育研究支援機構」を発足し、包括的に連携・調整ができる仕組みをつくることにしました。再編後のセンター・部門については、右ページをご覧くださいと思いますが、特徴的な内容について概略をご紹介します。

まず、情報化社会に対応できる教員を養成するため、ICT(情報通信技術)教育の充実を目的に、学術情報研究センターの研究開発部門を、「情報・メディア教育研究開発部門」として機能強化を図り、センターを学術情報教育研究センターと改称しました。

また、本学では、法人化後、文部科学省のGPをはじめとする競争的資金を継続的に獲得し、先導的な特色ある取り組みを行ってきました。理数教育研究センターにおける「理数教育プログラム(SST(スーパー・サイエンス・ティーチャー))



養成プログラム)」や大学院修士課程のカリキュラム「地域と伝統文化」はその取り組みの成果を生かした代表的事例です。その後、新たに取り組んできた ESD 教育・文化遺産教育、教育支援等人材（スクールサポーター、ボランティア）育成などの取り組みや成果を発展させるため、新たに持続発展・文化遺産教育研究センターを設置して三部門（「人権・市民性教育研究部門」「文化遺産教育研究部門」「文化多様性教育研究部門」）を配置しました。同様に、現教育実践総合センターに地域教育支援開発部門を新設して、教育実践開発研究センターと改称しました。

今後、これまでの実績、その成果を生かした新たな教育プログラムを開発し実施することで、学部及び大学院の教育課程へのかかわりをより深くし、文化財・世界遺産を有し、自然豊かな奈良の特性を生かした知識やスキルを身につけた教員や、社会の一員であることのモチベーションや人間力を

持った資質能力の高い教員を養成するための一翼を担うことになります。

関連して、センター機能をより発揮できるよう、平成 23 年度に順次、センターの研究室や関連施設の移転を行います。さらに、現学術情報研究センターの図書館については、より大学図書館としての機能を拡充し利便性の向上を目的に改修工事（平成 23 年 12 月竣工予定）を実施します。

これらセンター再編に当たっては、県内の教育関係機関の皆様からもさまざまなご提言ご助言をいただいております。再編に伴って各センターがすべての機能を発揮するにはもう少し時間が必要かと思ひます。また、図書館改修に関しては、学生の皆さんはじめ利用者の方々にはご不便をお掛けすることになりますが、どうぞご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

奈良教育大学教育研究支援機構を構成するセンター・部門とその業務について(概要)

学術情報教育研究センター（学術情報研究センターから改称）

本学の教育と研究に関わる学術情報・資料の収集、利用及び活用の促進、情報ネットワーク等情報基盤の運用管理、情報・メディア教育及びその研究開発を行います。

【図書部門】

・本学図書館及び教育資料館を運営し、学術情報の収集、管理、提供及び展示を行います。

【情報基盤部門】

・本学情報館を運営し、学術情報の取り扱いに必要な情報基盤の運用管理を行います。

【情報・メディア教育研究開発部門】（新設・機能的統合）

・学術情報の収集・管理・提供・展示及び情報基盤の運用に関する研究並びに情報・メディア教育等を行います。

教育実践開発研究センター（教育実践総合センターから改称）

教育実践、教育臨床及び地域教育支援に関わる理論的、実践的研究を専門的・学際的に行うとともに、高度の教育実践力を有する教員及び学校教育に係る諸問題に適切に対処できる教育実践の指導者の養成に寄与するとともに、その成果を地域に還元します。

【教育実践研究部門】

・教育実践の内容と方法に関する理論的、実践的な研究を行います。
・教育実習及び事前・事後指導に関わる企画・コーディネーションを行います。

【教育臨床研究部門】

・教育臨床的な問題（不登校、いじめ等）に関する理論的、実践的な研究を行います。
・教育臨床的な問題に係る学校支援やコンサルテーションを行います。

【地域教育支援開発部門】（新設）

・地域教育支援に関わる理論的、実践的又は学際的な開発研究を行います。
・子どもサポーター、こどもパートナー認証制度に係る研修会を実施します。
・スクール・サポーターなどの学校支援及びボランティア活動支援を行います。

持続発展・文化遺産教育研究センター（新設）

人権・市民性教育、文化遺産教育及び文化多様性教育に関わる理論的、実践的研究を専門的・学際的に行うとともに、その研究成果を応用し、高度の教育実践力を有する教員及び広義の教育者の養成に寄与すること及び留学生の支援並びに国際交流協定大学等との交流・連携を推進します。

【人権・市民性教育研究部門】（新設）

・人権と文化多様性、環境を重視する持続発展教育(ESD)の内容と方法に関する理論的実践的研究と教育を行います。
・人権及び市民性教育に関わる企画・コーディネーションを行います。

【文化遺産教育研究部門】（新設）

・伝統文化や文化財・世界遺産の教材開発、教授法・学習法の開発を行い、教科及び教科横断の内容を豊かにする研究を実践的に行います。
・ユネスコなどの国際機関と連携し、ユネスコスクールに関する取り組みを通して、持続発展教育を推進します。

【文化多様性教育研究部門】（新設）

・文化多様性教育の軸を東アジアに据え、理論的実践的研究と教育を行います。
・留学生教育を背景とした持続発展教育を推進します。
・提携大学との交流を基盤として、東アジアに視点を置いた教育研究に関わるプロジェクトの企画・コーディネートを行います。

特別支援教育研究センター

特別支援教育に関わる理論と実践に関する教育研究を総合的にを行い、特別支援教育を担う人材の養成に寄与するとともに、地域における児童生徒等の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進に貢献します。

【発達支援部門】

・主に保護者を対象として、教育相談・発達支援などを行います。

【教育実践支援部門】

・教育委員会や学校等と連携して、共同研究、実践、人材育成などを行います。

理数教育研究センター

理数教育に関わる理論と実践に関する教育研究を総合的にを行い、理数教育を担う人材の養成に寄与するとともに、地域における児童生徒等の教育的ニーズに応じた理数教育の推進に貢献します。

【教育プログラム推進部門】

・地域の学校と連携しながら、実践を通して理数教育プログラムを開発します。

【先端科学教育部門】

・地域の学校教員と共同して試行しつつ、先端科学を学校教育にどのようにわかりやすく取り入れるか、などについて理論化し教材を開発します。

自然環境教育センター

奈良実習園(市内)、奥吉野実習林(五條市大塔町)の施設等において、授業・公開講座・自然教室等を通して自然環境教育を行うとともに、それらに関する基礎的研究を行います。

【教育研究開発部門】

・フィールドを生かした自然環境教育の基礎的研究を行います。

【地域開放部門】

・奈良実習園と奥吉野実習林を活用して、地域や本学の園児・児童・生徒を対象に自然体験学習をプログラムに沿って行います。





ホールスクールアプローチで 取り組む ESD の推進

奈良教育大学附属中学校
教諭 小嶋 祐伺郎
お じ ま ゆ う じ ろ う



学校文化と ESD をつなぐ

附属中学校では平成 18 年度より「ESD の理念にもとづく学校づくり」を研究テーマに実践研究を続けてきました。また平成 20 年には ASPnet (Associate School Project Network: ユネスコ協同学校) に加盟し、学校や地域での学びを世界的視野で拡大深化させようと取り組んでいます。私たちが学校活動の全体を通して ESD を推進するのは、ESD が今日の地球的課題の解決という重要な使命を持つ教育理念であることはもとより、本校の教育目標がまさに ESD の理念そのものであるという認識に基づいています。これまでの日本の教育実践の中には ESD に関わる学びが多数蓄積されています。教育実践としての ESD の普及には、こうした地域を基盤にした学校文化と ESD をつなぐことが大切です。

実践の概要

(1) 教科・領域を連携させた ESD カレンダー ～教科の指導を核に～

本校では教科指導を核に「ホールスクールアプローチ（全校的取り組み活動）」を目指しています。教科指導の成果を総合的な学習の時間や学校行事と関連付け、さらに道徳で生き方を問うのです。こうした教科・領域の関連を示すために平成 20 年度には ESD カレンダーを作成し、実践を深めています。

(2) 自主・自立・自治の力を育てる教科外活動 ～教師と生徒の協働の学びから～

22 年前に一人の生徒の発案を基に、その意義が生徒会を中心に広げられて実現した「平和の集い」では、教科の授業で培った課題意識を総合的な学習の時間で調査活動やグループ学習によって深め、それを学校全体のテーマにまで高め、生徒会主催の集会で生徒と教師がともに学びあっています。また、生徒が創るビオトープとしての中庭プロジェクトの活動も生徒が自主的に進めています。

(3) ユネスコスクール相互の活動の充実 ～地域でのつながりを大切に～

一昨年、本校の発案で「奈良 ASP ネットワーク」が発足し奈良のユネスコスクールのつながりができました。昨年の 8 月には奈良教育大学の学生の参加を得て、1泊2日で「奈良子ども会議」を実施しました。

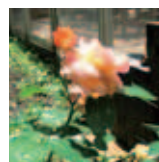
今後の展望

～2014 年に向けての新たな挑戦を～

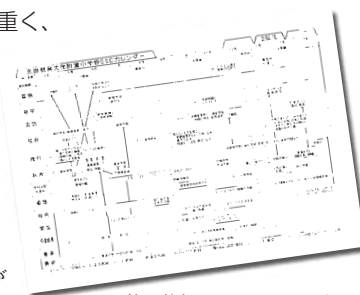
ESD は教科の学習内容を深めつつ、新たな学習観や子ども観を学校教育に提供する可能性を持っています。そこで私たちは「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」の最終年度である 2014 年に向けて、これからの 4 年を新たな挑戦と位置づけ、次の 3 点を中心に取り組んでいます。

- ① ESD カレンダーの焦点化を通して ESD の学習の構造化を図る。
- ② 生徒相互の学びの深まりや自己変革を促す学習の構築のために「対話型」の授業実践に取り組む。
- ③ 地域でつながる実践を深め、それを世界的視座に深化させる奈良 ASP ネットワークの活動を充実させる。

ESD は教育の国際化や教育改革に、新たな視点と方法を提供しました。そのことをふまえると地域と世界をつなぐわたしたちユネスコスクールの使命は重く、これからの活動が問われるのだと考えています。



中庭には
平和の集いで
取り上げた
「アンネのバラ」が
咲く



第2学年のESDカレンダー



奈良子ども会議

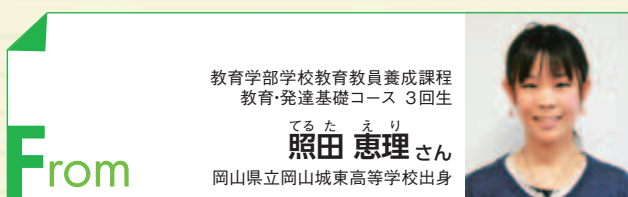


平和の集い

※ 1 ESD (Education for Sustainable Development: 持続発展教育) … 持続可能な社会の担い手を育む教育

※ 2 国連持続可能な開発のための教育の 10 年 … ESD を世界的に進めていくために、2005 年から 2014 年までを「ESD の 10 年」とすることが、2002 年の国連総会で採択されました。





社会に還元できる研究を目指して

大学に入学する当初、心理学に興味を持っていたからこそ心理学専修を選択したものの、今から考えると、心理学についてほとんど無知の状態であったと思います。そんな学生に心理学の面白さや、ときには難しさを教えてくださるのは、やはり先生方です。右も左もわからない状態の学生に一から丁寧に教えてくださり、質問することや、自分の意見を発表することで、一人ひとりがより深い理解をし、知識を定着させることができるように指導してください。私の所属する研究室の豊田弘司先生は、3回生の大学祭の発表、卒業論文ともに、きめ細やかなご指導をしてくださいます。

豊田研究室では、主に認知と記憶、情動知能と適応の関係など、教育現場で遭遇する事柄についての研究をしており、先生と先輩方の背中を追いながら、そして時には先生の厳しい指導を受けながら、社会に還元できる論文を書くことを目標に頑張っています。

大きな力 ～人間関係力～

心理学専修の学生がそれぞれ所属する研究室は3回生の前期に決定します。豊田研究室では毎年この時期に歓迎会を開き、初めてゼミ生としての一步を実感します。先輩方の温かい歓迎と、先生のご指導を身近に感じることができ、より一層「頑張ろう!」という気持ちになります。その後、研究室での初めての活動が大学祭で展示する心理学の研究発表になります。それぞれの研究室ごとに3回生が協力し、テーマを決めて、初めて一つの研究発表に挑戦します。それまでの2年間で学んできたことを生かしながらか頑張るのですが、やはりわからないこともたくさんあり、道に迷いそうになってしまうことがあります。そんなときは研究室の先生と4回生の先輩方や大学院生が強力な助っ人として助けてくださいます。先生も先輩方も研究室で論文に取り組んでおられます。忙しいにもかかわらず、いつも急にお邪魔する学生を優しく迎えてくださり、アドバイスをしてください。そして勉

強を助けていただくだけでなく、研究室を訪れるごとに先生や先輩方との心的距離も近づき、関係を深めることができます。基礎ゼミから始まり、心理学検査や心理学実験を通して培われてゆく仲間関係や先輩・先生との関係が大きな力となり、卒業までの日々を支えてくれるのだと思います。

豊田研究室のモットー

豊田研究室のプレゼンテーションは、常に真面目な中に“笑い”を交えることをひとつの目標としています。一生懸命に研究に取り組む姿勢の中に、“笑い”を取り入れる余裕を持った学生になれるよう、日々努力しています。近年、教師の休職率の増加が問題になっていますが、心理学の研究室で培った人間関係力をもとに、厳しい環境でも生き抜く力を持った社会人になれたらと思います。なかなか至らないこともあるのですが、明るく真面目に、人を思いやる気持ちを大切にしていくことをモットーにこれからも頑張っていきたいと思います。

豊田研究室でのこれまでの主な卒業論文テーマ

●記憶を促す情報に関する研究

憶えるべき情報に対してどのような情報を付け加えれば、記憶に残る可能性が高まるかを検討。

●情動知能に関する研究

情動（感情）を処理する能力を情動知能というが、この情動知能が学習や適応にどのように影響しているかを検討。

●人間関係に関する研究

人間関係は多くの要因によって規定されるが、対人距離によって変化する相手への印象を仮想場面を設定して検討。

Student's Voice

私は豊田研究室で随伴経験をテーマに卒業論文を書きます。随伴経験とは自分がした行動に対して良い結果が返ってくる体験、つまり成功体験です。この随伴経験と自己肯定感の関係をみるのが研究の目的です。豊田先生のご指導のもと、研究室の仲間と共に、しっかりとしたものを書きあげたいです。



教育学部学校教育教員養成課程 教育・発達基礎コース 3回生

うら みず ほ 浦 瑞帆さん
奈良県立奈良高等学校出身



クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介

音楽を 科学する



ストレス社会

「癒しの音楽」や「音楽療法」という言葉を聞かれた方は多いと思います。また、音楽によって癒されるという経験は、だれでもお持ちでしょう。音楽を聴いて楽しくなったり、逆に悲しくなったりしますが、音楽には人間の心や身体に働きかける不思議な力があります。

「この力はいったい何なのか?」、「どうして音楽は心や体に影響を与えるのか?」私は、毎日こんなことばかり考えています。べつに暇をもてあましていてわけではありません。この疑問の答えを見つけることが、人類の未来にとって必要不可欠なことだと考えているからです。

今、私たちはとんでもない時代に生きています。とくに日本は、1991年にバブルがはじけてから、経済は停滞し「失わ

れた20年」という言葉に象徴されるように、いまだ長期的な衰退から抜け出せないでいます。一方で、少子高齢化がますます進行し、年金や医療・福祉などの社会保障制度の崩壊すら危惧される状況です。また所得格差の拡大や非正規雇用者の増大など世の中、暗い材料ばかりです。

こうした社会は、決して住みよい社会ではありません。経済的にも精神的にも、生きていくのが「しんどい」社会です。そのことは、犯罪の増加や年間自殺者が13年間連続で3万人を超えるという現象となっており、あらわれています。また、「家族の崩壊」、「消えた高齢者」や「無縁社会」といった言葉に代表されるように、人間同士のつながりが大変希薄になってしまいました。

社会の基礎は、家族を単位とした「つながり」ですから、いまの日本の状況は、もはや社会として体をなしていないと言っても言い過ぎではないでしょう。

こうした社会に生きる人間は、とてつもないストレスにさらされています。本来、人間の身体は、ストレスに打ち勝つ力をもっているのですが、じつは、いま私たちが経験しているストレスは、人類がこれまで経験したことのないほど過酷なものなのです。

残念なことですが、戦争や飢餓などのストレスは、祖先たちの時代からずっと存在していました。しかし、かれらが経験しなかったストレスを、私たちがかかえていることに気づいている人は少ないと思います。一例を挙げると、私たちの祖先は、数十年の長期ローンに苦しむことはなかったでしょう。じつは、私たちが長い進化の過程で経験してきたストレスのほとんどは、ごく短い期間で終わってしまうものだったのです。通常、ストレスは、あっという間に通り過ぎていくのが普通であり、今の時代のように長期間にわたるスト



レスはありませんでした。さらに、万一、苦しみ(ストレス)が続くようなことがあっても、それを和らげ、支えるしくみ、つまり家族や社会がしっかりしていたのです。それが今はどうでしょう。日本の家族や社会は崩壊寸前です。

音楽があふれている現代

話はわかりますが、現代ほど音楽が身近にある時代はありません。いまや、携帯型音楽プレーヤーを持っていない人のほうが少ないのではないのでしょうか。でも、考えてみるとこれはここ数年のことで、それ以前は、レコードやラジオの時代が長く続きました。もっと昔になると、音楽を楽しむためには、自分で演奏するか、人に頼む以外、方法はなかったのです。私たちは当たり前のように思っていますが、

だれでも、何時でも、どこでも音楽を楽しめるようになったのはごく最近のことなのです。

ここでまた、私は立ち止まって考えてしまいます。「なぜ、人々はこれほどまでに音楽を求めるのか?」。単に、人間は音楽が好きなのだという説明では、もの足りません。そこで思いあたるのが、音楽とストレスの関係です。皆さん方は、どんなときに音楽を聴くでしょうか? 調べてみると、多くの人はストレスを受けているときに聴いていることがわかります。事実、音楽にはストレスを和らげる働きがあることがわかっています。人間はストレスを受け

ると、副腎からコルチゾルというホルモンを放出して、ストレスを鎮めようとします。ところが、音楽を聴いていると、コルチゾルの量が少なくて済むことがわかりました。これは、音楽がストレスを和らげていることを意味します。

慢性的なストレスに苦しんでいる人は、コルチゾルが不足していたり、逆に、量が多すぎたりします。面白いことに、音楽は少ない人の量を増やし、多い人の量を下げたりします。どうやら、音楽はコルチゾルの量を調節することでストレスを和らげてくれるようです。そして、その結果、人は癒されたという感覚をもつのです。

音楽教育講座

ふく い はじめ
教授 福井 一

プロフィール

『音楽の感動を
科学する』
(化学同人)



専門は、音楽生理学、行動内分泌学。

京都市立芸術大学音楽学部音楽学科卒、ミシガン大学大学院修士課程修了。著書に『音楽の謀略』(悠飛社)、『音楽の生存価』(音楽之友社)、『音楽の感動を科学するーヒトはなぜ“ホモ・カントゥス”になったのか』(化学同人)。

「音楽」という芸術を、科学の視点から研究するユニークさは自他共にみとめるところ。研究のモットーは「たかが音楽、されど音楽」。

日々、学生たちに「自分が“無知”であることを知ることが“賢さ”への第一歩である! そのためには、本をたくさん読むこと」と檄を飛ばす。

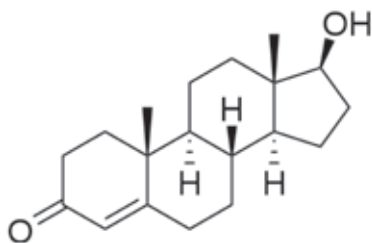
近著の『音楽の感動を科学するーヒトはなぜ“ホモ・カントゥス”になったのか』は、日本経済新聞、読売新聞、雑誌『アエラ』や『音楽之友』などの書評欄で取り上げられている。





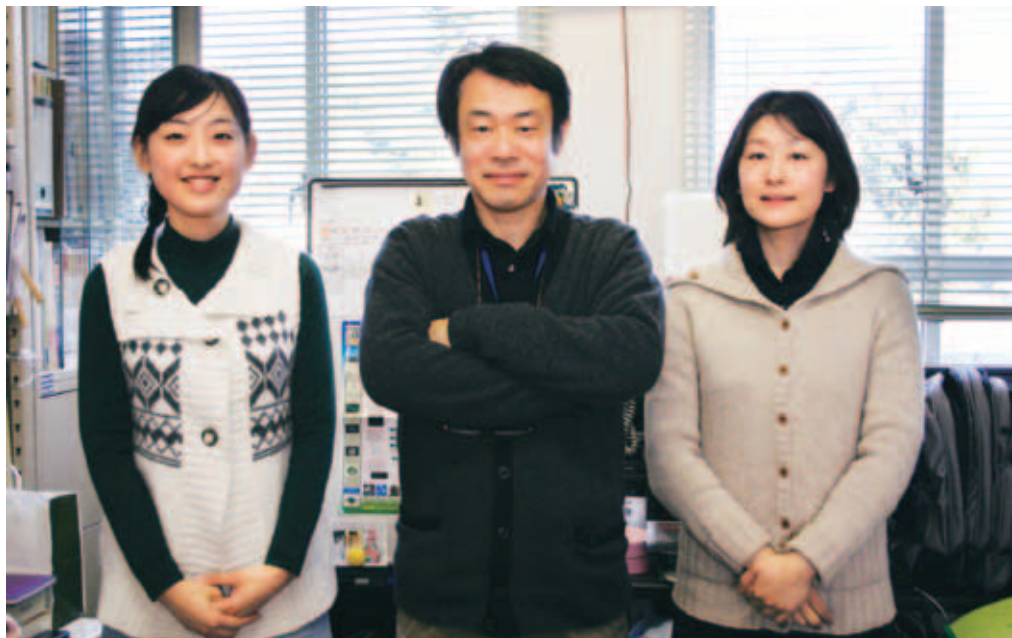
音楽とホルモン

これまでの研究の結果、音楽は、脳を含めた身体全体で、ホルモンなどの化学物質の調整を行っていることがわかってきました。私たちが音楽を聴いて感動しているとき、脳や身体ではさまざまな化学物質が分泌され、血液や細胞の中で互いに影響を及ぼしあいながら、活発に活動しているのです。もちろん、遺伝子にも働きかけて、タンパク質を作りだし全身に供給しています。正確に言えば、身体の中でこうした変化がはげしく起きているとき、私たちは「感動」していると感じるのです。



テストステロン

音楽が作り出す化学物質は、たくさんあると想像されますが、私が一番興味を持っているのは、テストステロンとエストロゲンというホルモンです。一般には、男性ホルモンと女性ホルモンという名で知られていますが、じつは、その量に差はありますが、男女とも二つのホルモンをもっています。これらのホルモン(性ホルモン)が、思春期に第二性徴を引き起こすことはご存じだと思いますが、それ以外にも、身体の中でさまざまな働きをします。なかでも、近年、もっとも注目されているのは脳での働きです。じつは、性ホルモンは、脳で新しい細胞(ニューロン)を作ったり、細胞同士の連結を強めたりすることがわかってきたのです。私は世界で初めて、音楽を聴いただけで、これらのホルモンの量が変化することを見つけました。当初は、音楽でなぜ性ホルモンが変化するのかずいぶん悩みました。なぜなら、当時、成人の脳細胞は加齢や病気で失われることはあっても、増えることはな



研究室のメンバーと

いと考えられていたからです。しかし、その後、成人の脳でもニューロンが作ることがわかりました。そこで、音楽がホルモンを通じて、脳の中で新しい細胞を作り、傷ついた細胞を修復している可能性があると考えるようになりました。ちなみに、この説は現在、世界中の研究者から注目されています。

音楽の機能

高齢化が急速に進む現在、アルツハイマー病などの認知症に罹る人が増えています。記憶に障害を受け、自分の子どもの顔すらわからなくなった患者さんでも、むかし覚えた歌はすらすら歌えると言う話をよく耳にします。そうした患者さんに、音楽療法を行うと、さまざまな記憶がよみがえり、徘徊などの行動面での障害が緩和され、薬の量も減らすことが出来たという報告はたくさんあります。おそらく、音楽が性ホルモンに働きかけ、失われ傷ついた脳を修復したのだらうと想像されます。

このように、音楽は、化学物質を通じて人間の心や体にさまざまな影響をあたえるのですが、なぜ音楽はそんなことができるのでしょうか？ 詳しいメカニズムはわかりませんが、その目的は明らかです。ストレスをやわらげて、心身を健やかにすることです。そして、もうひとつ。人間同

士をつなげることです。先ほども書きましたが、私たちはストレスの強い社会で暮らしています。音楽がこんなに好まれるのは、ストレスを少しでも和らげたいという私たちの本能の証しです。そして、サッカーや野球観戦で応援歌を歌うとき、あるいは校歌、社歌、国歌を歌うとき、私たちは互いに「つながっている」ことを確信します。こう考えると、音楽は人を作り社会を作るために存在していることがわかります。

音楽の科学的な研究は、まだ始まったばかりで研究者はそんなに多くありません。おそらく日本では私を含めて数名でしょう。しかし、いままでわからなかったことが、どんどん明らかになってきています。ですから、音楽で人類を救うことも夢ではありません。

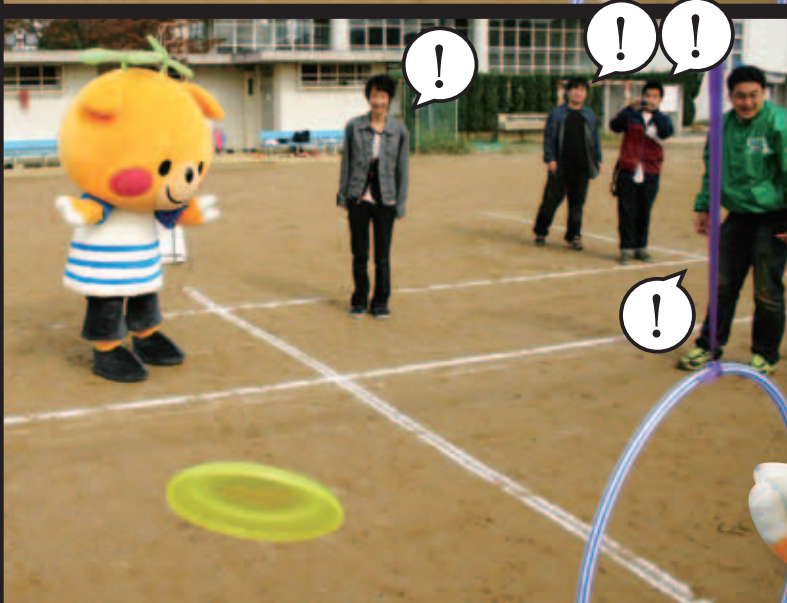


学生広報スタッフ
“なっきょん's CLUB”
企画

奈教の

ひみつ

学内施設紹介



今回は、知っていそうで知らない
大学の活用方法を、学生広報スタッフ
“なっきょん's CLUB”のメンバー3人が、
なっきょんとともに案内します。





奈教には、教職をはじめ
あこがれの職業につくために
夢を持って多くの学生が
学んでいるんだけど、
やっぱり実際に目指すもの
になれるのか、不安だね。
何からはじめればいいのか、
どんな風に取り組めばいい
のかなといういろんな悩みが
でてるよね…。

①



そんな時には…

管理棟1階



キャリアサロンは先生を目指す人・
企業に就職を希望する人、どちらに
もオススメの場所なんだ。

へえ～！

③



ここには、教員採用試験や企業に関する
資料がたくさんそろっていて、親身になって
話をしてくれる相談員が君を迎えて
くれるよ！面接の練習も出来るから、
自信をつけたい人は是非訪れよう！

④



ん…急にお腹が
イタイよ～！

そんな時も…

⑤



大丈夫だよ。

そんな調子の悪い時のために、
大学には保健センターが
あるんだよ。

安心して、
なっきょん

保健センター長
つじい ひろゆき
辻井啓之 教授

⑥



静かに休養がとれるから、
休みたい時はいつでもおいで。
医師、看護師とカウンセラーの先生で、
体と心の不調に対応しているよ。
学生は元気な人が多いから、あまり
馴染みがない人もいるかもしれない
けど、体調がすぐれなかったり、
心配や不安があれば気軽に相談に
来てください。

は～い

管理棟1階

⑦



でも、なっきょん。
大学ではいろいろ
勉強しているけど、
実際に先生になったら
大変なことがたくさん
でくるよね。
僕は、先生として
しっかりやっていけるか
不安でさ。
本当に教育者としての
力がついているの
かなって。

そうだね。実際に先生になってから
でもいろいろ思考錯誤は必要だし、
いつまでも勉強は続けないといけない
からね。教職についてからの実践力が
気になってきたようだね…

じゃ
ついて来て！



ピューン！

ここ、ここ！
教師力サポート
オフィス！



8

9

教育実践開発研究センター

教師力
サポートオフィス

おはようございます

おはようございます

「ふかめる」、「めざす」、「つなぐ」、「ささえる」の4つのキーワードを
元に、教師になるために必要な能力や学ぶべき知識を身につけるため
のサポートをするところだよ。

先端的な教職科目体系の
モデル開発プロジェクト代表
いくたしゅうじ
生田周二 教授

ここには、DVD 資料や「教師力 100 冊」と
銘打って教師力をつけるために厳選された書籍
を置いています。貸し出しもしているので、
ぜひ利用してくださいね。

サポートオフィス

おはようございます

おはようございます



10

11

実は他にもいろいろ力を
つけられる隠れた場所がある
んだよ。最後にとっておきの
場所を紹介するね。

授業等が無い場合は、実技練習用に
学生に開放されているから、
集中して練習できるんだ。
是非利用してみてね。

今回の企画は、なっきょん's CLUB が取材・編集を行いました。
なっきょん's CLUB では学生広報スタッフを随時募集しています。
広報の仕事をしてみたい、こんな企画がしたい、なっきょんと活動したい
など興味のある方はぜひ加入してください！お待ちしております。
【問合せ先】企画・広報室 kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

12

ここ、ここ。
音楽棟！



(おわり)



教育学部 1 回生
鳥取県立
鳥取西高等学校出身
はまた だ
浜田 丹生さん

教育学部 1 回生
奈良県立
登美ヶ丘高等学校出身
はら ゆうすけ
原 佑輔さん

教育学部 1 回生
近畿大学附属
高等学校出身
いずみ だに だ
泉谷 忠至さん

13





「学生時代に学んだことのすべてが、今の自分につながっていると思います。」

平成21年に入社後、『チャレンジ』や『赤ペン先生』で知られる「進研ゼミ小学講座」の編集部に所属し、今は、5年生の理科に携わっています。小学生の4人に1人が学習する教材を作るというやりがいと、子どもたちの大切な瞬間に関わるという責任を感じながら、日々の業務に取り組んでおります。

在学中は理科教育の学科に在籍していたこともあり、4年間の授業や実習での経験が、理科の教材を作るための素地となっています。しかし、教育出版社とはいえ、大学で学んだ知識が活かされるのは稀で、むしろ、授業・実習に加えて、研究・先生方や友人との交流・アルバイトなど、学生時代に学んだことのすべてが、今の自分につながっていると思います。

例えば、大学時代の研究では「奈良県のシカと森の生態」を扱い、電波の届かない山へ何度もキャンプに赴き、泥だらけになって調査をしたり、徹夜でデータとにらめっこしたりしていました。大学に入るまでキャンプすらしたことがなかったので、驚きの連続でしたが、「今しかできないことをしたい」と自ら希望し、運転免許を取得したり、寝袋で寝泊まりしたり、シカの糞を探して斜面を這いつくばっていました。大学に入学するまでの自分では考えられないことでしたが、1つのことに集中して学びを深めるという経験で、根性が身につく、そして何より、自分の基礎となるものができたように思います。

「子どもたちが好き」「笑顔になるお手伝いがしたい」と思って教育大学に入学し、変わらぬ想いを抱えたまま入社して2年。今ふりかえると本当にあっという間で、学生時代の時間の尊さを改めて実感しています。まだ学生である皆さんには、是非、さまざまな場所に出向き、多くのことを経験してほしいと思っています。今その瞬間にしか味わえないこと、学生の間にしか体験できないことがたくさんあります。たくさんの人やものとの出会いで自分を豊かにし、自分だけの魅力を磨いてください。

最後になりましたが、植物生態学研究室の松井 淳教授をはじめ、在学中は、本当に多くの方に見守られ、人として育てていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

株式会社ベネッセコーポレーション
小学生商品開発部
小5教材開発セクション理科担当
堀井 麻美さん

(平成21年3月 教育学部学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース卒業)



調査隊の仲間たちと



奈良県大峯山脈 前鬼での調査



社会人となり日々教材づくりに奮闘する堀井さん

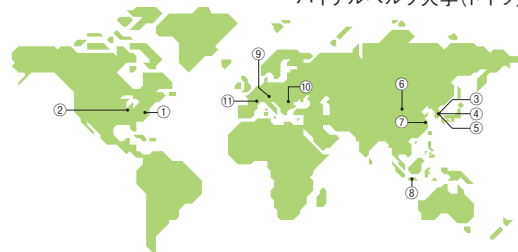


留学生 レポート

奈良教育大学では7カ国11大学と国際交流協定を締結し、学生交流や研究者交流を行っています。国際交流協定校で修得した単位は審査を経て奈良教育大学の単位として認定されます。また、留学期間中も奈良教育大学に授業料を納めることで、留学先大学の入学料及び授業料が免除となります。今回は、この制度を利用して留学をしている尾登勇介さんに話を聞きました。



ハイデルベルク大学(ドイツ)



- | | | |
|---------------|--------------|-----------|
| ① ロック・ハイブン大学 | ⑥ 西安外国語大学 | ⑩ プカレスト大学 |
| ② セントラルミシガン大学 | ⑦ 華東師範大学 | ⑪ リヨン第三大学 |
| ③ 嶺南大学校 | ⑧ インドネシア教育大学 | |
| ④ 公州大学校 | ⑨ ハイデルベルク大学 | |
| ⑤ 光州教育大学校 | | |

Reporter



教育学部学校教育教員養成課程
言語・社会コース 3年生
奈良県立奈良高等学校出身

おのほり ゆうすけ
尾登 勇介さん

ドイツ・ハイデルベルク大学
(留学期間 2010.9 ~ 2011.8)



ハイデルベルク大学 ドイツ語コースの学生と。左から3人目が尾登さん

✚ 留学をしようと思ったきっかけは。

小学生の時にドイツの歴史に関する本を読み、古代ローマの遺構や中・近世の建築などを初めて目にしました。そのときに、いつかドイツへ行って本物を見てみたいと思ったことが留学のきっかけです。

✚ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

授業の他には、会話集や文法書などを購入して勉強していました。特に留学が決まってからの半年間は、たとえ忙しい日があっても毎日30分以上するようにしていました。

✚ どのような1日を過ごしていますか。

平日は、午前中に大学付属の語学学校で授業、午後からは歴史学の講義の聴講、夜は予習・復習という生活を送っています。また週末には、現地の学生や他の留学生と一緒に大学主催のツアーや演奏会、パーティーなどに参加しています。

✚ 留学生生活を始めて一番驚いたことは何ですか。

ほとんどの業種の店が20時から22時の間に閉まることです。また日曜日はカフェやレストラン以外はほぼすべての施設が休みです。最近まで法律で定められていたようで、現在でも夜や休日には店の明かりは消えていることがドイツでの常識です。

✚ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

きっかけの所でも挙げていましたが、歴史ある建物や文化に囲まれて実際に生活していることが一番の幸せです。しかし、会話に慣れるまでは言葉の壁が非常に大きな問題でした。

✚ 帰国してから留学体験をどのようにいかしていきたいと思いますか。

僕の専攻は近代ドイツ史なのですが、こちらの図書館で集めた資料やドイツ語で書かれた本などを読む際に身につけた語学力を使いたいと思っています。

✚ 在学生、高校生に一言

長い期間を海外で過ごすことは、そう簡単に決められることではないと思います。しかし、自分とは異なる考えや信条を持った人々との触れ合いや、海外での暮らしを体験すれば、心の中の世界観が本当に広がります。一生忘れることのない経験ができます。



ハイデルベルク城と
アルテブリュッケ
(カールテオドル橋)



キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ 奈教生



Profile★ プロフィール

教育学部学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 3回生

しんじょう たくみ

真城 匠さん 私立清風高等学校出身

中学校時代に会った生徒思いの先生に憧れ、自身も中学校教諭を志す。2009年夏、附属中学校長でもある谷口義昭教授(技術科教育)から誘われたのをきっかけに、附属中学校科学部のコーチとして活動を始める。昨年の夏には、附属中学校科学部員による地域の小学生対象のロボットセミナーを企画・コーディネートした。



WRO世界大会表彰式にて

世界大会出場の附属中学校科学部をコーチとして支える ～大切なことを、繰り返し伝えることで、チームをまとめる～

本学附属中学校科学部は、ロボットに関した大会でこれまでに数々の優秀な成績を残してきています。今回は、そんな科学部のコーチとして、昨年、自律型ロボットによる世界大会「World Robot Olympiad (WRO)」(p.21 関連記事)に出場した真城匠さんに話を聞きました。

ロボットとの出会い

「附属中学校の科学部をサポートしてくれないか。」

2009年の夏。真城さんは、附属中学校長でもあった谷口義昭教授から思いもよらない誘いを受け、コーチとしての活動を開始しました。附属中学校の科学部といえば、国内外のロボットコンテストに出場しているクラブ。しかし、真城さんは附属中学校に科学部があることすら、その時まで知りませんでした。それに、大学でプログラミングのことは学んでいたものの、ロボットを作ったことがなかった真城さんは「自分に、いったい何ができるのだろう」と困惑したといいます。

そんな心配も顧問の福田哲也教諭の「技術面はもちろんだが、部員たちの良き先輩として心の面でも支えになってほしい」との一言で変わったといいます。

コーチとしての収穫は多岐にわたる

附属中学校科学部は、1～3年生まで約40人程度の部員が所属しています。そんな彼らとコーチとして接する中で真城さんは、ただ単に技術の指導方法だけでなく、さまざまなことを収穫できました。

「大きな大会があると、もちろん大勢の部員を連れて行かな

いといけないんです。ましてやそれが世界となると生徒たちの危険防止だけでなく、体調管理も行いながら大会の練習をしていかないといけなくて、すごく責任を感じました。このような経験は、教育実習などでは、体験できなかったと思います。」

真城さんは、部員と接する上で、ひとつの言葉を大事にしています。それは、顧問である福田教諭から頂いたアドバイス、「大切だと思うことを、なんども繰り返し伝える」

生徒への指導では、一度のアプローチでは伝わらないこともあるが、大切だと思うことは、繰り返し言うことで、必ず伝わる。

部内での議論の仲裁やプレゼンテーション技術、外国人とのコミュニケーション術に関してのアドバイスなど、コーチとして多岐にわたる活動を行う中で、その言葉は大きな指針となっています。

目指すべき姿

活動の中で、時として部員の悔し涙や、逆に今回の世界大会出場の際には、部員の喜び姿に出会ってきました。ものづくりの製作過程では、単に技術力のみならず、創造力や問題解決能力、人間関係力に至る総合的な能力が培われることを、コーチ活動を通じて真城さんは強く感じることができました。そんな真城さんが目指すのは、将来、今回大会でも使用していたレゴなど自己創造性のあるものを、さまざまな授業で活用し、総合的な人間力を培っていける教員です。



ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属13団体、体育会所属26団体の課外活動団体があり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、バドミントン部です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 漫画研究会
- 歴史研究会
- 舞台工房KATE
- 地歌筆曲部

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

pick up

バドミントン部

部員数 34名(男子18名・女子16名)

練習は水、金、土の週3日。日曜日には自主練習を行っています。2月には社会人の大会にも参加するなど、学生の大会にとどまらず積極的に活動しています。春・秋のリーグ戦、夏の近教、そして冬の全教と年間を通して大会があり、目標が途絶えることなく、盛んに活動しています。

大学生活を有意義に



教育学部学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 2回生
和歌山県立橋本高等学校出身
バドミントン部主将
なかお りょう
中尾 遼 さん

こんにちは。奈良教育大学バドミントン部です。体育会系の部活である私たちバドミントン部は、年2回の大きな大会に向け、日々練習に励んでいます。練習は週に3回で男女が共同で運営してい

平成22年度関西学生バドミントン
秋季リーグ戦女子5部で優勝しました!



ます。練習も男女合同で行っており、とても仲の良い部活です。先輩後輩のつながりも大切にしており、また同学年の友達もいっぱいできます。

この部活には、年間を通してたくさんのイベントがあります。春には花見や、新入生歓迎会があり、夏には合宿、近教、秋は大学祭があり、冬は新年会と全教があります。とても楽しく一年間を過ごすことができます。

近教とは、近畿国立教育系大学バドミントン選手権大会のことであり、近畿の教育系6大学が参加します。昨年度、私たちは男子が優勝、女子が3位入賞を果たしました。また、全教と呼ばれる全国国立教育系大学バドミントン選手権大会には、近畿の6大学を含め、全国



から教育系の大学が集まります。今は前回の成績を上回るように猛特訓中です。このような大会を通して、奈教だけでなく、また近畿に限らず全国の大学に友情の輪を広げることできます。

そんなバドミントン部は4月から練習を開始しています。経験者はもちろん、初心者も多い部活です。大学から何か始めようと思っている方や、挑戦したいと思っている方は、気軽に体育館まで来てください。またバドミントン部に限らず、何か課外活動に参加するようにしましょう。それが大学生活を楽しむ秘訣です。

ウインドアンサンブル IF Winds



(写真左から)

石井孝征さん(教育学部 3回生)

大道靖弘さん(教育学部 3回生)

宇都宮花織さん(教育学部 1回生)

- ◆ 第38回奈良県アンサンブルコンテスト大学の部
- 【金賞(奈良県代表、関西大会出場)】

森慎太郎さん(教育学部 3回生)

- ◆ 第48回近畿地区国立大学体育大会弓道競技男子個人戦【優勝】

奥田章人さん(教育学部 3回生)

- ◆ 第48回近畿地区国立大学体育大会弓道競技男子個人戦【準優勝】
- ◆ 第26回全国教育系大学弓道選手権大会男子個人【準優勝】

本川久美子さん(教育学部 3回生)

- ◆ 第57回 日本学書展
- 【文部科学大臣賞】

小島美春さん(大学院 1回生)

- 【奈良県知事賞】

古川智佳子さん(大学院 2回生)

- ◆ 第84回国展彫刻部【入選】

山下圭介さん(大学院 2回生)

- ◆ 第45回関西国展彫刻部【新人賞】
- ◆ 第18回川西市展立体の部【三席】
- ◆ 第28回市展「なら」彫刻の部【市長賞】
- ◆ 第61回奈良県美術展覧会
- 【奈良県議会議長賞(彫刻の部)】

山田健介さん(教育学部 4回生)

- ◆ 平成22年度近畿学生野球連盟秋季リーグⅡ部リーグ【ベストナイン(外野手)】

前田拓哉さん(教育学部 1回生)

- ◆ 第53回全国教育大学ソフトテニス大会男子の部【新人賞】

植田紗弥子さん(教育学部 2回生)

- ◆ [奈良マラソン2010]フルマラソン女子29歳以下【8位】

山本哲也さん(大学院 2回生)

- ◆ 第84回国展彫刻部【入選】
- ◆ 第18回川西市展立体の部【一席】
- ◆ 第61回奈良県美術展覧会【展覧賞(彫刻の部)】

福田友樹さん(教育学部 4回生)

- ◆ 第61回奈良県美術展覧会
- 【審査員奨励賞(彫刻の部)】

西部裕香子さん(教育学部 3回生)

- ◆ 第34回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会【入賞】

弓道部

- ◆ 平成22年度関西学生弓道リーグ戦男子4部リーグBブロック【優勝】
- ◆ 平成22年度奈良県大学選手権大会男子団体戦【優勝】

バドミントン部

- ◆ 平成22年度関西学生バドミントン秋季リーグ戦女子5部【優勝】

ハンドボール部

- ◆ 第48回近畿地区国立大学体育大会ハンドボール大会【準優勝】

11月6日～7日



世界大会でブースを披露する科学部員

附属中学校科学部がWRO世界大会に出場。優秀成績をおさめる

フィリピンで行われた自律型ロボットコンテスト「World Robot Olympiad (WRO) 2010 世界大会」に、附属中学校科学部が出場し、ロボットを使ってプレゼンテーションの技術力や表現力などを競うオープンカテゴリーで日本チーム最高の世界第5位に輝きました。

同部は、世界大会に先立って9月に東京で行われた「WRO Japan 2010 決勝大会」

に出場。コースをロボットでクリアして競うレギュラーカテゴリーで総合4位に、オープンカテゴリーで優秀賞を受賞するなどし、世界大会出場の切符を手にしていました。

世界大会では、英語を用いて「奈良の世界遺産」についてプレゼンテーションを行い、プレッシャーに圧倒されることなく、堂々と競技に挑み優秀な成績をおさめました。

11月28日



奈良市立月ヶ瀬小学校児童による狂言

世界遺産学習全国サミット2010／奈良教育大学ユネスコスクール教育実践研究会を開催

本学講堂において本学、文部科学省、奈良市教育委員会、奈良国立博物館及び世界遺産学習連絡協議会主催の「世界遺産学習全国サミット 2010 in なら～奈良教育大学ユネスコスクール教育実践研究会」が開催されました。この研究会は、世界遺産などを通して、地域に対する誇りを育て、環境教育、平和教育、国際理解教育、人権教育を展開したりするもので、持続可能な社会

の形成者を育てるなど、ユネスコが推進している理念を学校現場で活かすことを目的としています。

サミットでは、市民対象の世界遺産学習会も行われ、その中で奈良市立大安寺西小学校の児童による創作音楽雅楽、奈良市立月ヶ瀬小学校の児童による狂言も披露され、会場からはESD活動の成果に対して、感嘆の声があがっていました。

12月5日



ランナーとハイタッチするなっきょん

奈良マラソン完走プロジェクトを実施

平城遷都 1300 年記念行事として奈良県初の公認フルマラソンとなる「奈良マラソン 2010」が開催され、全国から参加した総勢約 2 万人のランナーに加わって、本学からは「奈良マラソン完走プロジェクト」のメンバー 5 名が参加しました。

同プロジェクトは、地域貢献活動の一環として学長裁量経費プロジェクトとして企画採択されたもので、学生・教職員が協力

しマラソン完走を目指そうと本学の職員が立ち上げました。

参加した教育学部 3 回生の長野優希さんは、初めてのフルマラソンにも関わらず 3 時間を切る好タイムで完走し、「皆さんの声援のおかげで頑張れた。奈良でこんなに大きなイベントが催され、参加出来ることはうれしい限り。来年も開催されるなら絶対出たい。」と最高の笑顔を見せていました。

12月4日



食育シンポジウム

食育シンポジウムを開催

平成 20 年度から文部科学省の採択を受け実施している「教員養成大学による地域食育推進プログラム（質の高い大学教育推進 GP 採択）」の取り組みの一環として「食育は生活を豊かにする」をテーマに食育シンポジウムを開催しました。

12月10日～11日



講演に耳を傾ける参加者

百済文化国際シンポジウムを開催

百済と日本文化に関する研究交流を通じて、日韓関係の歴史的理解を深め、より確かな国際交流の絆を築くことを目的に、本学、東京芸芸大学、公州大学校（韓国）の 3 大学が主催し「第 3 回百済文化国際シンポジウム」を、本学で開催しました。



6月15日



長友恒人学長(左から3番目)と
光州教育大学校 朴南基総長
(右から3番目)

光州教育大学校と 国際交流協定を締結

教育研究や学際的研究において交流を深め推進していくために、韓国・光州教育大学校と国際交流協定を締結しました。

これで国際交流協定校は、世界7カ国11大学となり、より一層国際交流活動が広がっていくことが期待されています。

11月5日

光州教育大学校職員が本学を訪問

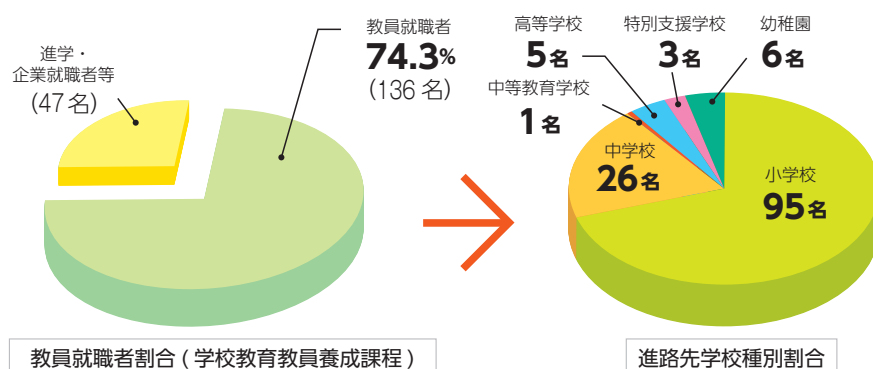


光州教育大学校の訪問団と本学職員

光州教育大学校の職員が、本学を訪問されました。

今回の訪問で、専門的知識の習得や両学の交流を深めました。

12月8日



教員就職率が全国第3位に

文部科学省は「国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）」の平成22年3月卒業生就職状況(平成22年9月30日時点)を発表しました。

その結果、本学の教員就職率は74.3% (対前年度13.9ポイント増) となり、全国第3位となりました。

奈良に息づく 仲間たち



自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己



ニワゼキショウ

ニワゼキショウはアヤメ科の多年生植物である。本学のシバ地で春から初夏に最も普通に見られる。この花は奈良公園のシバ地にもたくさん咲いている。公園のシバ地にも多くの花が咲くことは知られていない。それらの花は公園ではわずか1cmの草丈しかないからである。飛火野と学内のニワゼキショウの種子を同じ条件で撒いたところ、翌年には両方の種子とも20cmを越える草丈に生長した。公園内で小さいのはシカの採食に抵抗した結果だろうか、それとも、人やシカに踏まれて伸びないのだろうか。何らか

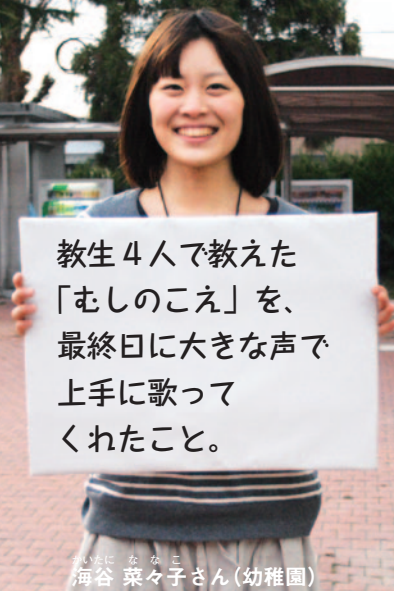


附属小学校 井上龍一教諭提供



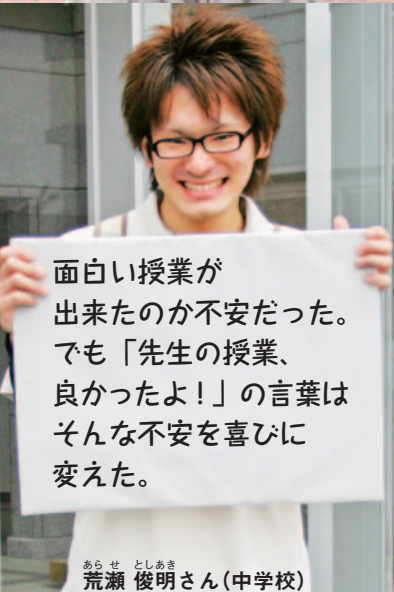
の信号や刺激で生長を止めて、花を咲かせ、実をつけているのだろう。定期的に鋏で切る、踏みつける、シカを連れてきて食べさせるというような実験で刺激が何なのかは解決するのだが、挑戦者はいないだろうか。最近は学内でも頻繁に草刈りされるようになった。何となく学内のニワゼキショウも小さくなってきたような気がする。





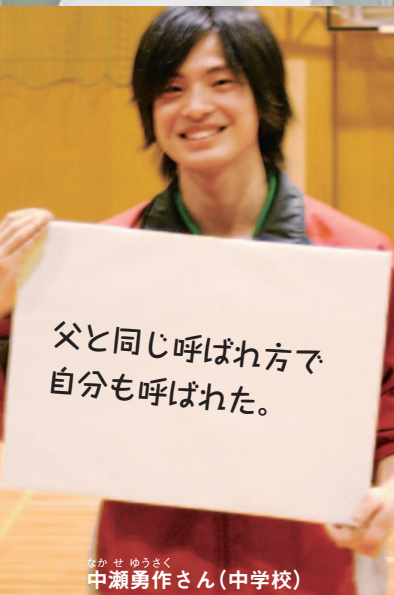
教生4人で教えた「むしのこえ」を、最終日に大きな声で上手に歌ってくれたこと。

あいた な こ
海谷 菜々子さん(幼稚園)



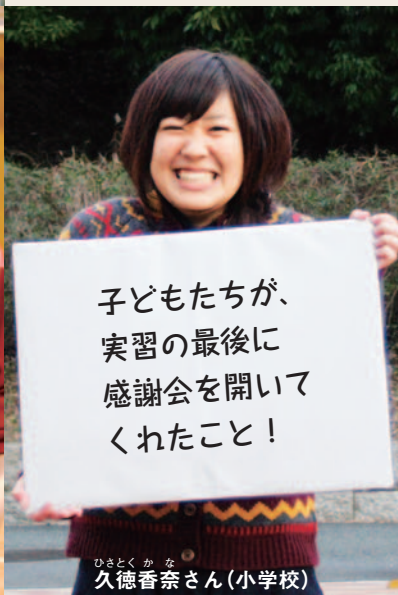
面白い授業が出来たのか不安だった。でも「先生の授業、良かったよ!」の言葉はそんな不安を喜びに変えた。

あら せ としあき
荒瀬 俊明さん(中学校)



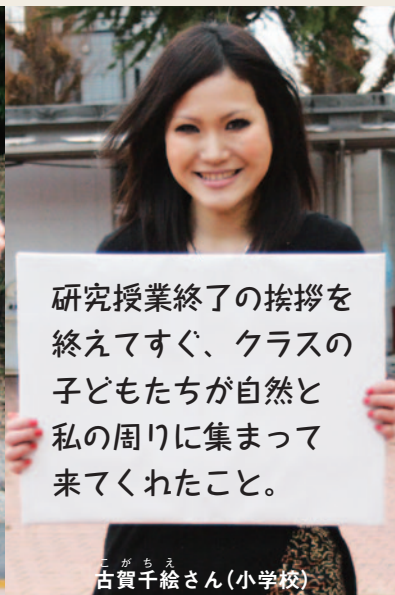
父と同じ呼ばれ方で自分も呼ばれた。

なか せ ゆうさく
中瀬 勇作さん(中学校)



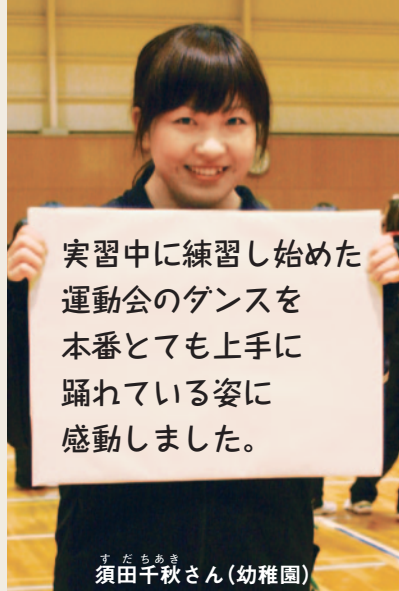
子どもたちが、実習の最後に感謝会を開いてくれたこと!

ひさとく な
久徳 香奈さん(小学校)



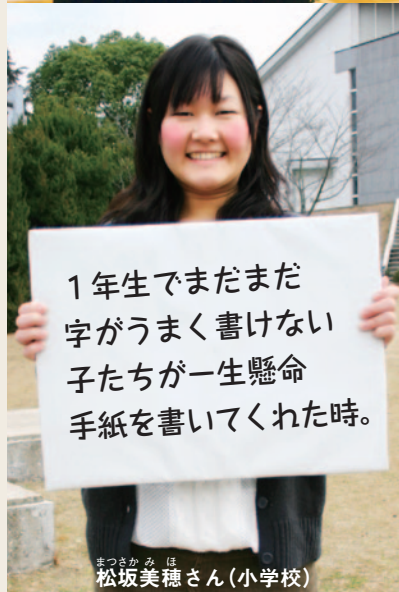
研究授業終了の挨拶を終えてすぐ、クラスの子どもたちが自然と私の周りに集まって来てくれたこと。

こ が ち え
古賀 千絵さん(小学校)



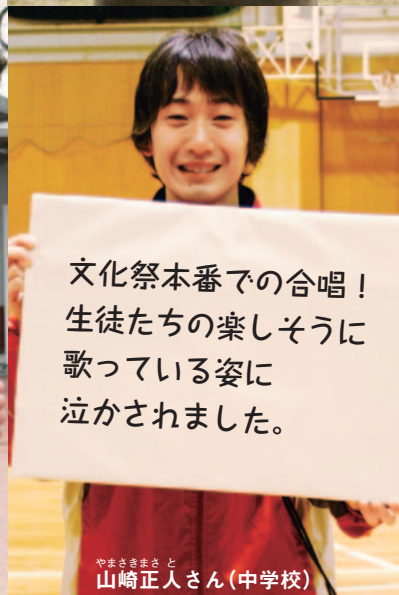
実習中に練習し始めた運動会のダンスを本番とても上手に踊っている姿に感動しました。

す だ ち あ き
須田 千秋さん(幼稚園)



1年生でまだまだ字がうまく書けない子たちが一生懸命手紙を書いてくれた時。

まつさか み ほ
松坂 美穂さん(小学校)



文化祭本番での合唱!生徒たちの楽しそうに歌っている姿に泣かされました。

やまき まさと
山崎 正人さん(中学校)

奈良教生に聞きました!

vol.1

元気いっぱいの笑顔とふれあい、子どもたちにたくさんのことを教えてもらった教育実習。約4週間の実習の中で、一番感動した瞬間を聞いてみました。

()内は、実習校種

今号から『ならやま』は、細部にわたって見直し全面リニューアルいたしました。



弊誌に関するご意見・ご感想を貼付のアンケートハガキで
お寄せください。また、QRコード対応の携帯電話にて
アンケートに回答いただくこともできます。
皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



なつきよん's
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動を手伝ってくれる
学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は企画・広報室まで、
お気軽にお問い合わせ下さい。



国立大学法人
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』

第36号 平成23年3月24日 編集/広報・情報公開委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

奈良教育大学ホームページ <http://www.nara-edu.ac.jp/>